

部分補修(光硬化)・部分一体型補修(光硬化)

4 部分補修(光硬化) … 更生管の前処理工

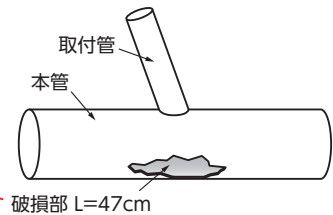
φ300 コンクリート管

状況

φ300 更生予定の管きよの底部に大きな破損箇所があり、移動式カメラや材料の引き込み時に支障をきたすおそれがあった。

対策

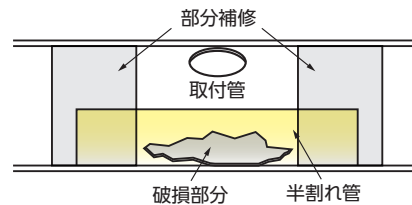
事前に部分補修材料で、半割れ管を作成。



* 半割れ管を管きよ内に挿入し、両端を部分補修で固定する。



作成した半割れ管 L=80cm



端部の固定



半割れ管の挿入



前処理完了



更生施工後

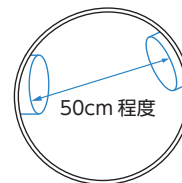
大きな破損部分のディンプルも発生せず、綺麗に仕上がった。

5 部分一体型補修(光硬化) … φ600人孔からの施工

状況

φ600 人孔より光硬化一体型 (250-150) の施工

本管更生後は、耐震対策のため、更生材を5cm以上残すことになっているため、人孔内の有効幅は、45~50cmとなっており、通常の光施工機 (長さ90cm) では施工が出来なかった。

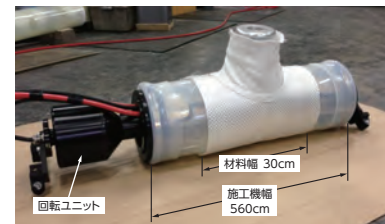


φ600人孔

対策

一体型施工機の改良

回転ユニット部分はワンタッチで取り外し可能。**補修幅は30cm**の特殊一体型施工機で施工が可能。



施工例



① 補修材巻きつけ状況



② 補修材 張り幅30cm



③ 挿入状況



④ 回転ユニットを外す



⑤ 施工機本体部分を挿入後、回転ユニットを接続



⑥ 挿入完了
あとは通常の施工と同様です